

オドリコソウ

建設情報誌

# C-net 通信

Construction

Vol. 255

さが

『C-net通信』で

検索

2015年4月15日

発行所:(株) NSC

<http://www.nsci.co.jp>

■会員料金■

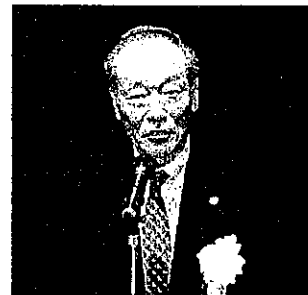
## 平成27年度(第12回)研究成果発表会

原社長「研究開発型の企業として挑戦」

# 他業種と協業やNETIS登録

## 日本建設技術(株)グループ

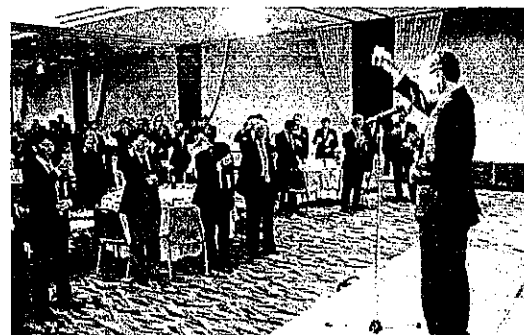
日本建設技術(株)(原裕社長、唐津市北波多)グループの平成27年度「研究成果発表会」(第12回)が11日、唐津シーサイドホテルで開催された。来賓やグループ企業の社員ら約200人が出席。同社の平成26年度の活動実績とミラクルソル水質浄化システムのNETISへの技術再登録の報告が行われた。併せて優秀社員の表彰と資格取得者、新入社員の紹介があり、新年度へ結束を新たににした。



挨拶する原社長



会場の様子



懇親会での乾杯風景

毎年4月のこの時期に開催しており、原社長が冒頭、「日本建設技術グループでは“信頼と技術”の精神で新事業への展開と地域社会での新しい企業の在り方にチャレンジし続けている。その中でも環境分野に最重点を置き、様々なことをやってきている。毎年、産業のエネルギー消費により地球上で72億トンのCO<sub>2</sub>が排出され、海や山林等の吸収を除き大気中に41億トンが蓄積され続けている。その結果、地球温暖化により、集中豪雨や火山の噴火、地震などで大きな災害が起こっている。我々、建設業や建設関連業でも環境に良い材料、環境負荷低減ができる工法を採用の条件とすべきと、発注者等へも言い続けている」と企業理念を強調した。

さらに、佐賀県のコンサルタント業務では、設計等の手持ち業務が平成27年度からの試行で技術者1人当たり5件まで(2年間の経過措置で平成29年度から3件)と新たに入札参加資格の制限が実施されることから、国土交通省の入札参加の認定資格となった地すべり工事士などをはじめ資格の取得を促した。最後に「これからも研究開発型の会社として、時代のニーズを的確に感じ取りながら、競争力と経営力を高めながら新たな挑戦をやっていきたい。そして、持続可能な会社づくりに邁進していきたい」とあいさつを締め括った。

研究成果発表では、まず原社長(工学博士)が『2014度のあゆみとMBS S工法の改良型』の演題で講演。他産

業とのマッチングの事業実績として、▽中堅ゼネコンの東京本社社屋移転に際しての透保水性舗装工法による外構と屋上緑化の施工▽大手家電メーカーの薄型テレビのガラスの人工ゼオライトへの再資源化▽石膏建材大手への人工ゼオライト納入など年間の活動実績を語った。

また、同社技術研究所の松尾保成副所長(工学博士)が『ミラクルソル水質浄化システムのNETIS技術登録』をテーマに発表。同社のNETISへの登録実績は、ミラクルボール緑化工法など4件あるが、登録期間が5年(最大10年)の規定のため、ミラクルソル水質浄化システムを3月に再登録した。再登録に際しては、水に沈む浄化材として比重1.4(従来は0.4)に改良。多孔質の表面積も3倍に増え、浄化性能もアンモニアの分解速度で1.7倍に向上した。処理施設の施工費もより安価で、工期も短縮する効果があるという。次回のNETISへ登録は軽量盛土にトライしたい、と話した。

そして、資格取得者として、日本建設技術4人、精工コンサルタント4人を紹介。また、大和地研を含め3社の計6人を功労賞など社内表彰した。また、日本建設技術8人、精工コンサルタント2人の平成26年度と27年度の新入社員10人を紹介した。

その後の懇親会では、来賓やグループ企業の社員らが一堂に会し、和やかに交流した。

【4月14日HP掲載】